

## 固定性補綴学

## 後期講義

《担当者名》○教授/會田 英紀 aita@  
講師/油井 知雄 yuit@  
非常勤講師/柳 智哉

教授/舞田 健夫 tmaida@  
客員准教授/廣瀬 由紀人 yukito@

講師/仲西 康裕 nakanisi@  
非常勤講師/白井 伸一

## 【概要】

## 固定性補綴学

ブリッジとは、1歯ないし数歯が欠損している場合に、残存歯の歯冠又は歯根に結合して維持を求めるとともに義歯に加わる機能圧を全面的に残存歯で支持するよう設計、製作された補綴装置を言う。すなわち、欠如部に隣接する歯及びそれに続く歯に結合し、橋梁の理論によって欠損歯の歯冠形態、機能及び外観を回復し改善する補綴物である。ここでは、ブリッジの理論と実際を習得する。さらに、口腔顎系が咀嚼、発音、嚥下等の仕事を行うとき、下顎はそれぞれ目的に合った位置を示し、また、運動を行っている。下顎の基本的な位置と運動の様子など顎咬合機能を理解する。

## 【学修目標】

## 固定性補綴学

1. 支台築造の臨床的意義を説明する。2. 支台築造の種類と方法、その選択基準を説明する。3. 築造窩洞形成の原則と手順を説明する。4. ブリッジの臨床的意義を説明する。5. ブリッジの適応症を説明する。6. ブリッジの種類を説明する。7. ブリッジの構成要素について説明する。8. ブリッジの設計における支台歯の選択基準を説明する。9. ブリッジの支台装置の種類を説明する。10. 部分被覆冠の支台歯形成の注意点を説明する。11. 前歯ならびに臼歯接着ブリッジの基本デザインを図示する。12. 接着ブリッジの利点を列挙する。13. 接着ブリッジの適応症を説明する。14. 接着ブリッジ装着時の金属ならびに歯質被着面処理を説明する。15. ボンティックの種類と選択基準を説明する。16. ブリッジの支台装置とボンティックの材料を説明する。17. ブリッジの連結法と特徴を説明する。18. 固定性連結、半固定性連結、可撤性連結について説明する。19. 固定性連結法の種類を列挙できる。20. ろう付け法について説明する。21. フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明する。22. パントグラフによる下顎運動の記録法を説明する。23. FGPテクニックの特徴と適応症を説明する。24. 半調節性咬合器の調節方法を説明する。25. 術後管理の重要性を説明する。26. リコール時における検査項目を説明する。27. 固定性補綴装置の生存率がどれくらいであるかを説明する。28. 固定性補綴装置の失敗の原因をあげることができる。29. 補綴装置装着後に発生した問題の解決方法を挙げる。30. 治療計画を左右する因子をあげることができる。31. 歯周病の種類、症状、治療について説明する。32. 咬合・咀嚼障害の病因と病態について説明する。33. 咬合・咀嚼障害の症状と徴候について説明する。34. 口腔インプラントの生存率がどれくらいであるかを説明する。35. 口腔インプラント治療の意義と特徴を説明する。36. 口腔インプラント材料と組織について説明する。37. 口腔インプラントの基本構造を説明する。38. 口腔インプラントによる治療術式を説明する。39. 口腔インプラントの上部構造の種類について説明する。40. 口腔インプラント補綴装置の選択基準について説明する。41. 口腔インプラントの術後管理について説明する。42. 高齢者・要介護者における補綴治療について理解する。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	1. 歯冠継続歯 2. エンドクラウン 3. 支台築造	歯冠継続歯とエンドクラウンの違い、それぞれの利点、欠点ならびに適応症について理解する。 支台築造の目的、種類等について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」(P82, 126-133) D-5-3-1-2, 3	會田 英紀
2	4. ブリッジの種類と構成	ブリッジの臨床的意義と目的、適応条件、構造について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」(P292-295) D-5-3-1-2	會田 英紀
3	5. ブリッジの設計	支台歯と支台装置の選択ならびにブリッジの設計について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」(P83-101) D-5-3-1-2	會田 英紀
4	6. ブリッジの製作 A. ワックスアップ B. 固定性連結 C. 半固定性連結 D. 可撤性連結	ブリッジの製作法について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」(P295-302) D-5-3-1-9	會田 英紀
5	7. 部分被覆冠	歯冠部に生じた部分的な歯質欠損に対して部分的	舞田 健夫

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	A. 3/4クラウン B. 4/5クラウン C. 7/8クラウン D. ピンレッジ E. プロキシマルハーフクラウン F. アンレー	に被覆するクラウンの適応やブリッジの支台装置としての適応ならびに支台歯形成について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」( P 77-82) D-5-3-1-2	
6	8. 接着ブリッジ A. 概要 B. 特徴 C. 適応症 D. 禁忌症 E. リテーナーのデザイン F. メタルフレームと被着面処理 a. 使用合金の要件 b. 被着面処理 G. 表面処理と接着操作	接着ブリッジの応用、適応症、禁忌症などについて理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」( P 303-313) D-5-3-1-2、12	舞田 健夫
7	固定性補綴学中間試験	1 ~ 6 回までの講義内容について試験を実施する。試験時間は80分、満点は100点で評価する	會田 英紀 舞田 健夫 仲西 康裕 油井 知雄
8	9. 歯周病患者におけるクラウンブリッジ治療	歯周組織と歯周病について理解する。 歯周疾患に罹患した歯列のクラウンブリッジ治療について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」( P 31-37、340-344) D-5-3-1-13	會田 英紀
9	10. 下顎運動記録と咬合器の顎路調整 A. フェイスアウトランスファー B. チェックバイト法	下顎運動記録法について理解する。 咬合器の顎路調整について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」( P 159-161) D-5-3-1-11	會田 英紀
10	11. 術後管理 12. 高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ治療	術後管理について理解する。 高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ治療について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」( P 240-256、333-339) D-5-3-1-13	會田 英紀
11	13. インプラント補綴 A. 定義と意義 B. 構成 C. 特徴 D. 材料と種類 E. 予後に影響する因子	インプラント補綴の特徴、材料と種類、予後に影響する因子について理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」( P 314-326) D-5-3-3-1~8	廣瀬 由紀人
12	14. 顎関節症患者における補綴歯科治療 15. オーラルアプライアンス	顎関節症患者における補綴歯科治療について理解する。 オーラルアプライアンスについて理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」( P 327-332、345-350) D-3-1-11-1、6	會田 英紀
13	16. クラウン・ブリッジ補綴の臨床	多くの症例を通じてクラウン・ブリッジ補綴の臨床的意義についてより深く理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」( P 314-326) D-5-3-1-13	白井 伸一
14	17. インプラント補綴の臨床	多くの症例を通じてインプラント補綴の臨床的意義についてより深く理解する。 「クラウン・ブリッジ補綴学」( P 314-326) D-5-3-3-8	柳 智哉
15	まとめ 問題演習	1 ~ 14回までの講義内容について演習問題に取り組むことで前期の講義内容をより深く理解する。	會田 英紀

### 【授業実施形態】

#### 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

#### 固定性補綴学（後期）

[固定性補綴学（講義）評価方法] 中間試験（筆記試験）20%、定期試験（筆記試験）80%

- ・ 中間試験と定期試験の点数を上記の配分で合算した点数が60%以上で合格と判定する。
- ・ 中間試験の追再試験は実施しない。
- ・ [固定性補綴学（実習）評価方法] 実習の項目を参照

[判定方法] 講義と実習を同等に評価し、それぞれが60%以上を合格とする。

#### 固定性補綴学実習（後期）

各課題に小テスト（15%）、平常点（15%）、レポート（30%）を加味し、作品の出来（40%）を評価する。最終的には合計で60%以上を合格とする。

#### 固定性補綴学としての通年評価

前期と後期を同等に扱い、60点以上を合格とする。

### 【教科書】

「クラウンブリッジ補綴学」第6版 矢谷 博文 ほか 編 医歯薬出版

### 【参考書】

「第4版 冠橋義歯補綴学テキスト」越智 守生 ほか 編 永末書店

### 【備考】

1. 学習教材（授業資料）の配信
  - ・ 授業資料の配布はGoogle Classroomを利用する。
2. 授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術の活用
  - ・ Google Formを活用し、授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。
3. 過年度の授業アンケートへのフィードバック  
授業アンケートの結果、すべての項目が学部平均を上回っていたが、自由記載の中で重要項目を穴埋めにしてほしいとの要望があったため、昨年度後期授業から穴埋め形式の講義資料も別途追加で配信している。

### 【学修の準備】

受講する前に各学習項目の授業範囲を指定した教科書で予習し、理解できない部分を抽出しておく（30分）。

授業の最初に前回講義内容に係る小テストを実施することがあるので復習をしておく（30分）。

小テストは実施後に解説を行う。

### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

### 【実務経験】

《歯科医師》會田英紀、舞田健夫、仲西康裕、油井知雄、廣瀬由紀人、白井伸一、柳 智哉

### 【実務経験を活かした教育内容】

歯冠補綴学ならびに橋義歯補綴学は、少数歯欠損により低下した機能と外観の回復を図るとともに、咀嚼系の異常を予防する理論と技術を研究する学問で、歯学としては重要な臨床学科である。したがって、学理に則った教育内容と歯学全般にわたる幅広い知識に立脚した臨床実務を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。

### 【その他】

この科目は主要授業科目に設定している